

# 6月報(2026年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26  
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615  
e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

## 【浦上四番崩れ殉教地 椿谷巡礼】

富田 恵子

浦上四番崩れの信者は、総数 3000 名余りに及び、全国 20 藩 22 カ所に流配された。鳥取藩には 163 名が流配され、椿谷牢獄(非改心者：椿谷は鳥取市立立川町にある谷間の呼称)と善久寺(改心者：鳥取市丸山町)の 2 カ所に収監された。現在椿谷には鳥取刑務所収監死亡者の合葬碑があるが、近年のもので往時を偲ぶものは無い。

椿谷牢獄は、切石を敷き詰めた上に蓆(むしろ)を 1 枚ずつ並べただけで天井も極めて低く、立てば頭を打たんばかりの牢獄であった。

信徒はすし詰めになされ、膝の上に重なり合うという状態で、食事は一日に米粒の乏しい水のような粥一杯のみであったとされている。鳥取藩流配者の死者数は過酷な居住条件、厳しい寒さなどのため、45 名に及んだ。(鳥取藩流配者の死亡率 28%は、和歌山、高知について全国第 3 位で、流配者の取り扱いは他藩に比べ極めて過酷であったと思われる)。死亡者は椿谷牢獄内で死亡した信徒は牢獄付近に、善久寺で死亡した信徒は寺の境内に埋葬された。

上記の資料をいただいたが、私は事前に『旅の話』を読んでいたのも特に「亡くなった信徒の死体を藁に巻きながら、外に出して日にさらし、逆さまに四斗樽の中に突っ込んで土の上に半ば以上露出させ、狐狸の貧食にまかせた」という背筋が冷たくなるような記述を知っていたのでどのような場所で行われていたのかと、椿谷を目指しました。



5月3日は小雨も降る中で、いっそううら寂しい殉教地の様であった。この鳥取の地から、浦上十字会の最初の4人の中のひとり、深堀ワサさんが帰郷して、津和野の守山マツさん、岡山の

岩永マキさん、土佐の片岡ワイさんと共にドロ神父の手伝いをされていたこと。伝染病(赤痢天然痘の患者の救護から始まり、のちの浦上養護院にもつながっている。)への対応。手のひらに炭火をのせられたエピソードも印象深く、明治の初めもっと注目されてよい流配地だと思いました。

輶からどのようなルートで鳥取まで、たどりついたのか、また帰郷の時も尾道まで歩き、和船で長崎に向かったといわれているので、どこの街道を歩かれたのかなぁと思いながら鳥取から帰福しました。

## 【清々しいミサにあずかって】

中島 知子



初めて、31日尾道教会のマリア祭に参加し、ごミサにあずかりました。福山教会と比べると、ささやかな広さの御聖堂と、祭壇の背後一面に広がる、ガラス越しの青空に心がいやされました。

尾道・三原・福山などからの参加の方々ではほぼ一杯のなか、それでも静謐な雰囲気でもミサが行われました。

私の席から祭壇まではとても近くて、白い服姿の侍者さん達の息使いまで聞こえてくるようでした。

ふと私は、とても失礼なことを思いました。“侍者をしている子らが、また奉納している子がとても穏やかなエネルギーを出しているな”と。

ミカエル神父様が時々子どもらに「走らない」と諭しておられる場面が浮かんできました。神父様は、ミサとはただ静かなのでなく、私たちの主に向かう心が穏やかで真摯でなければ、と言われているのかもしれない。

ミサ後、御聖堂内外におられるマリア様に巡礼しました。屋根の上のマリア様、園庭のマリア様、玄関におられるマリア様…。先唱者がそれぞれ自分の国の言葉でアヴェ・マリアの祈りを唱え、みんながそれに続きました。

参加全員での記念撮影、パーティーと一つひとつの行事を楽しみました。

大きな組織だと、私たち信者一人ひとりが、なかなか心一つにして、イエス様に向かうことが時には難しいかも知れませんが、尾道教会に学ぶとしたら、少なくともミサ中は静謐な雰囲気を互いにつくりあいたいと思いました。

と言っている私が、ミサ前後、隣の人にあれこれ話しかけたりしてざわついているのですが…。



## 【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～マタイ福音書 19 章～

『それゆえ人は、父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。』

今日は、この結婚についての言葉を考えてみました。

私は修道奉獻しているのですが、結婚はしていませんが、結婚という尊い秘跡は、本当に素晴らしいものです。よく、私は信者さんに、「ブラザーは、生涯独身を守るなんて素晴らしいですね」と言われます。私はその方に、一生一人の人を愛し、大切に生きることこそ、素晴らしい事です。私にはとても出来ませんと言います。

結婚生活、修道生活、どちらも神さまから祝福された生き方です。大切なのは、神さまから頂いたそれぞれの召命を忠実に生きることです。結婚生活も素晴らしい、神さまへの奉獻の道です。大切に生きていきたいですね。

また、世の中には生涯をかけて独身を守り、素晴らしい働きをしているたくさんの方もおられます。どれも、神さまからの呼びかけに応えた大切な道です。それぞれの道を、神さまが、何をお望みかを考えて生きる。それが大切ではないでしょうか。

神さまから、たくさんの恵みを頂いた人は、天国にそれ以上の恵みの宝物を、神さまに返さなければなりません。

毎日、頂いたお恵みに感謝し、それを回りの人に分け与え、自分も大切な恵みとして生きる。そしていつの日か、神さまに出会う時に、神さまから頂いた恵みを宝物として神さまに捧げることが出来たら、どんなに素晴らしいことでしょう。

### 【赤ちゃんの祝福】

河村果林ちゃん(旧姓:檀上)が、ご主人と生後一か月の赤ちゃん(剛志くん)と一緒に帰省されその時に神父様から祝福を受けられた時の様子です。神様の豊かなお恵みの中、すくすくと元気に成長しますように…





毎週、火曜日と金曜日に私がお邪魔している小高工房の斜向かいに塩山薬局という震災前にはここに薬局があったという証拠のような建物があります。最近移住者によって、バーガーショップに生まれかわりました。

昨年の夏ごろ都会から移住してきた若者が、ハンバーガー屋さんを開くと聞いて、美味しいハンバーガーを小高工房でのお弁当にいただこうと、楽しみにしていました。10月ごろ、内装工事が始まって、年内にはオープンすると言われていたのですが、何しろ知り合いの、しかも素人（素人と言っても、お隣の設計士さんだったり、本人は電気関係の特技を持っておられるようなのでまんざら素人でもないのかもしれませんが）の2,3人の若者がシコシコと今までの薬屋さんのものを壊して、新しく天井からやり替えているので、12月になっても、まだガランドウ。年内開店は見送り。年が明けて、1月になって、左の看板が出されました。何と！「サルトリーヌバーガー いつかオープンします！」と。5日（いつか）でなくて、「何時かオープン」なので、通りがかりに、「いつか は、いつですか？」と聞くと、「1月末頃かな？」との返事。1月末ごろになっても、まだ、ガランドウ！！

「こんなのが許されるのはここだからだよね！！」

こんなに時間をかけてまだオープンしないお店を、温かいまなざしで見守ってくれる小高の町に感心します。ここではゆっくり時間が流れていくのです。やっと4月下旬にオープンしました。小高工房の広畑さんがいつも言っている、「ここ小高は『サグラダ・ファミリア』だから！なんでもゆっくりだよ」と。本当に事を成すのに、焦らずのんびりと構えて、心行くまでその過程を楽しむやり方に、現代のなんでもすぐに要求する風潮に抵抗する生き方に、ちょっと共感を覚えました。

「サグラダ・ファミリア（正式名称：聖家族贖罪教会）」は、スペインのバルセロナにあるカトリックのバジリカで、1882年の着工から140年以上も建設が続く「未完の傑作」として知られています。建築家アントニオ・ガウディ没後100年の2026年（今年）に主要部分の完成が予定されています。

とのこと。サグラダ・ファミリア式の生き方を、拡散させたいものですね。

ちょっと立ち止まって、一息ついて、自分の行き先をしっかりと見据えて行動する、余裕のある生き方を考えてみませんか？ 少しゆっくり骨休めしたい人、小高に移住してみませんか？



野馬追行事に騎馬武者として参加希望の女性の方は、今年の参加は見送りとなりました。残念ですが、お馬さんにご機嫌よく乗せてもらうには、結構時間がかかるようです。結局は、衣装を着けてお供として歩かせていただくことになったようです。

千年続く相馬野馬追行事は、多くの由緒ある家系の方々のほかに、勇気ある方々によって続けられていることを、このことを通して私も勉強させていただきました。



### わたしの召命物語 (続編)

わたしの召命物語を3月号でいったん終りにしたのですが、続編を期待していますという言葉は何人かからいただいて、私の稚拙な文章でも楽しみに読んでくださった方があることを驚きと同時に感激です。それで、また思いつくままに、過去を振り返って自分の人格形成にとって、遠く召命とつながる出来事を

拾ってみようと思います。

私が物心ついた頃にはすでに父のいない生活で、親戚のいとこたちの家族と一緒に山の中の割合大きな家に住まわせていただいていたいました。3家族で、子供たちが9人ほどでした。母は、郵便局の勤めのために、朝早くお弁当を作ってくれて、出かけて家には居ませんでした。お昼は柳行李(やなぎごうり)のお弁当箱に菜の花のように卵とじを散らしたお弁当を、菜の花畑の中で弟たちと一緒に食べたのをよく覚えています。夕方になると私は毎日一人で山を下りて、途中の観音堂で母が帰ってくるのを待ち、母が話してくれる落語を楽しみに聞きながら帰って、姉たちにその日に聞いた落語を話すというのが日課でした。

昼間は、いとこたちと一緒に遊んでいました。私と同年のノブちゃんと、弟と同年の女の子ケイ子ちゃんと、4人で遊んでいました。姉たちはもう小学校に行っていて、昼間は居ないので、幼い弟たちのお守りのようでした。

ある日のこと、忘れられない出来事が起こりました。

おもちゃの三鍬(みつぐわ)を持って、泥遊びをしていた時です、私が土を掘ろうと鍬を振り上げ、振りおろした時、ケイちゃんがかがみこんで、三鍬がケイちゃんの頭に突き刺さって血が吹き出しました。とっさに私は、自分がやったにもかかわらず、まだ何にも言えない弟のせいにして、泣きながら「みっちゃんが、みっちゃんが・・・」と言って大人に助けを求めに行きました。その出来事はみっちゃんがやったことになって、誰も疑いませんでした。幸いおもちゃの鍬だったので傷は大したことがなくて、すぐみんな忘れてしまいました。でも私の心には傷が残っていました。

カトリック学校福山暁の星学院の高校に入学して、旧約聖書を学んだ時、創世記3章の神様が食べてはいけないと禁じられた木の実を食べたアダムに、神様が「…とって食べるなど命じた木から食べたのか。」と。アダムは答えた。「あなたが私と共に居るようにしてくださった女が木

からとって与えたので食べました」と、女のせいにします。女に神様が「何ということをしたのか」、女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」と、蛇のせいにします。この箇所、私の過ちを弟に転嫁したのと同じ行為だと気づきました。アダムの子孫の DNA を私も受けていることを実感しました。

高校2年生になって、カトリック教会で公教要理（カトリックの教え）を学んで、父なる神様は、御子キリストの十字架上の贖いの御業によって、私たちの犯す罪を贖い償ってくださる。洗礼でその人の罪はキリストの贖いの御業で許されると聞いた時、私の子供のころから抱えていた傷が癒されるのを感じました。こどもの頃からず〜っと、抱えていた心の重荷でした。その傷がこんなところにつながっていたのかと、神様のなさりように驚きと感謝と賛美です。

### 【帰天のお知らせ】

sister マリーアンドレア 馬場智恵子様(89歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

### 【6月・7月の行事予定】

6 月		7 月	
7(日)	キリストの聖体	1(水)	福者ペトロ岐部と 187 殉教者
8(月)	8~12 教区司祭黙想会	3(金)	聖トマス使徒
12(金)	イエスのみ心	19(日)	街頭募金
24(水)	洗礼者ヨハネの誕生	22(水)	聖マグダラのマリア
27(土)~ 28(日)	教区召命学校	25(土)	聖ヤコブ使徒
29(月)	聖ペトロ 聖パウロ使徒		

### 【編集後記】

梅雨入りの情報が入るとすぐに早い台風がやって来て各地に被害をもたらしています。梅雨といえばシトシト長く静かに雨が続くものだと思っていましたが、いまや気候変動で何が起こるか予測できない日常になってきつつあると思います。昔から『備えあれば憂いなし』という格言がありますが、イエス様が言われた『気を付けて目を覚ましていなさいその時がいつかあなたがたは知らないからである(マルコ 13・33)』と話された言葉と一致すると思います。この難しい社会の中で私はどうあるべきか？私に行く道をお示しく下さいと今、この時こそ一心にお願いする時なのでは？私に道をお示しく下さい！と (S・F)